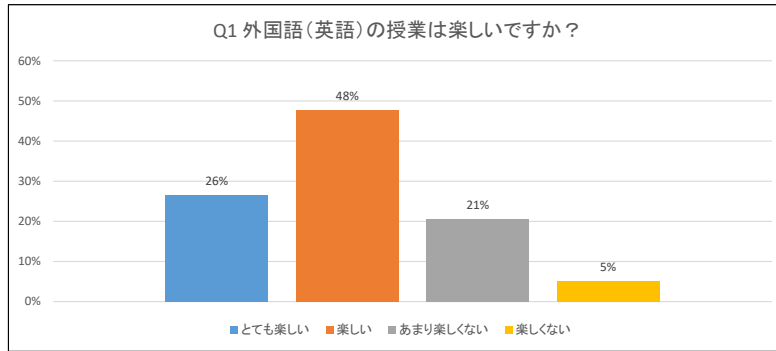


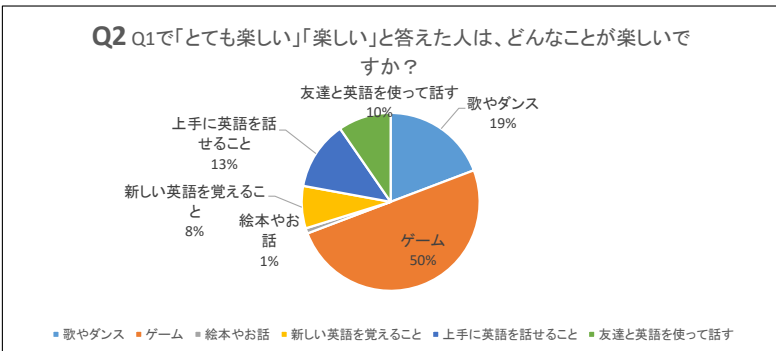
令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊野小)



【Q1について】

全体の74%の児童が外国語(英語)の学習に対して「楽しい」「とても楽しい」という感想をもっている。これは、教職員の指導に対しての理解が進んでおり、さまざまな学習形態や学習内容を積極的に取り入れて実践を行っているからだと考えられる。また、本校は小中学校が併設されているため、6年生は中学校の英語教諭と学ぶ時間も設定されており、より専門的な指導の下、学習する機会があるからではないかと考えられる。

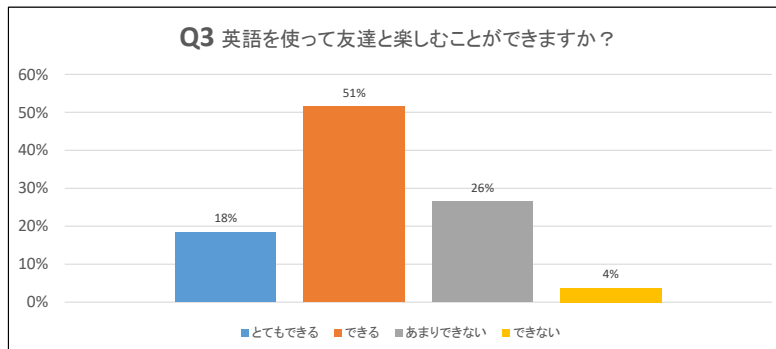
一方で、24%の児童が「楽しくない」「あまり楽しくない」と回答している。学級の児童の実態に合わせた授業づくりを進めていく必要があると感じられる。



【Q2について】

「歌やダンス」「ゲーム」などの活動的な学習内容を取り入れて行っていることで児童の外国語(英語)への関心を高めており、意欲的に学習に取り組むことができていると考えられる。

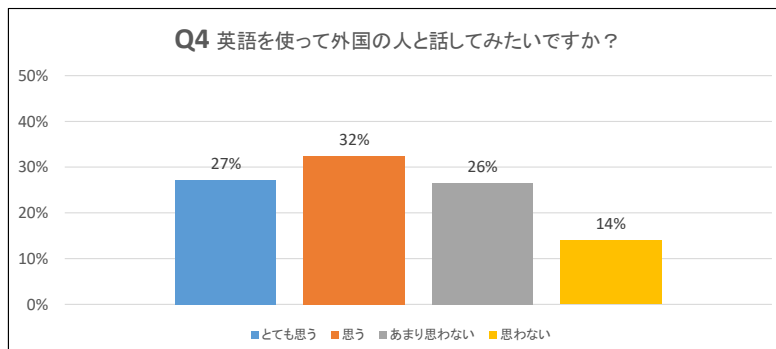
さらに「上手に英語を話せること」が13%、「友達と英語を使って話す」が10%と続いている。活動的な学習で高まった関心が、学年が高まるにつれ少しずつ英語の学習内容への関心、理解につながっており、そのことが児童の学習への意欲を高めているのではないかと考えられる。



【Q3について】

69%の児童が「できる」「とてもできる」と回答している。上記のQ2にもあるように、ダンスやゲームなどの学習内容によるものでもありと考えられる。さらに、低中学年における自己紹介やあいさつなどのやりとり、高学年における世界の国や絶滅動物など様々なものの紹介を通して学習を楽しんでいることが考えられる。

一方で30%の児童が「できない」「あまりできない」と回答している。これは、人とのやりとりや、人前での発表が苦手だからと考えられる。また、そこには外国語(英語)の学習の理解が進んでいないことも考えられ、授業の改善も視野に入れながら取り組んでいく必要がある。



【Q4について】

59%の児童が「思う」「とても思う」と回答しており、学習で習得した技能をより実践的に活用したいと考えている。これは、学習の理解が深まっていることと、日常的な学習における英語での友達とのやりとりや、教師、ALTとのやりとりで自信がついてきていることが起因しているのではないかと考えられる。一方で、40%の児童が「思わない」「あまり思わない」と回答している。英語でのコミュニケーションに自信が持てないことに加え、日常的なコミュニケーションも苦手と感じているからではないかと考えられる。学習内容にコミュニケーションを多く取り入れたり、できたことを感じられるような評価を使ったりする必要があるのではないかと考える。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

英語専科の教員がいないことで、専門的な知識はない担任が授業を行っているが、学校として教材を各学年に準備しており、さらに作ったものを追加していることで年々充実してきているように思う。さらに教材研究等を進めることで、外国語への興味関心を高め、中学校からの英語につなげていきたい。

【考察・今後の展望等】

児童の中には外国語(英語)の学習を苦手に感じている子もいる。その児童を「英語嫌い」にしないように、学習内容の改善や学級の実態に応じた学習の展開を工夫していく必要があると考える。しかし、中学校の英語の学習とのつながりを考えて、ゲーム的な内容から発表や会話などに内容の中心を移行していく必要もあると考える。

小中併設の良さを活かしながら、英語に対するプラスのイメージを高めていけるようにしていきたいと考える。